

地域環境体験学習プログラムの市民参加型策定方法

徳島大学工学部 学生会員 ○三浦 和夫

徳島大学工学部 正会員 山中 英生

徳島大学工学部 学生会員 田中 祐一

1.はじめに

小・中学校では、2002 年から「総合的な学習の時間」を導入するため、様々な地域学習の試行が始まっている。一方、新しい観光スタイルとしてエコツアーが注目されている。さらに、市民参加によるまちづくりが各地で盛んに行なわれており、地域に適した施設計画に地域学習は欠かせないテーマとなっている。これらの動きに共通している地域資源を学習するための体験型学習プログラムの開発を探ることが本研究の目的である。そのため、市民参加による地域環境体験学習プログラム策定方法を検討した。

2.地域環境体験学習プログラムとは

地域環境とは地域に存在する自然・文化・歴史環境、又身近に触れる生活環境全体を対象としている。地域環境体験学習プログラムは、地域住民の参加・協力・援助のもとに、地域固有の資源について体験を通して学習するための仕組みや活動のつながりである。今回は、その中でツアーやイベントにも活用可能な 1 日程度のプログラムを想定することにした。

3.「総合的な学習の時間」における地域環境体験学習プログラム

「総合的な学習の時間」は、従来の机上で行なう理論重視の教科ではなく、児童の体験や問題意識を重視し、環境や国際、福祉など教科等の枠を超え、横断的・総合的に体験的な学習をする特徴がある。具体的なねらいは、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力を育てること、又学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることが出来るようにすることとされている。

地域環境体験学習プログラムは、身近な地域資源の気づきから学習素材を提供するという役割と地域の市民と子供達、教育者達の交流の機会をもたらすことに

ある。地域資源の発見と地域住民の参加によって構成することで、地域資源情報と地域住民との繋がりの場が得られやすい。児童の関心の向いた事柄や現実の体験から発見する上でも、地域学習からのスタートが目されている。

4.エコツアーにおける地域環境体験学習プログラム

エコツアーには、自然・歴史・文化など地域固有の資源を活かした観光を成立させ、観光によってそれらの資源が損なわれることがないだけでなく、適切な管理に基づく保護・保全を推進させ、地域経済への波及効果が実現することをねらいとしているといえる。

地域環境体験学習プログラムは、こうしたエコツアーに学習の機能を重視させたものと位置付けることができる。地域資源に触れて楽しむだけでなく、学習目的をはっきりさせることで、今後の人生に活かされる体験内容とするプログラムであり、生涯学習を行なうプログラムを目指す。

5.まちづくりにおける地域環境体験学習プログラム

市民が身近な地域環境を見直すことで、地域の抱える問題や地域アイデンティティを自覚・把握し、そのことが地域づくりへの参加意識を高めることにつながる。すなわち、地域環境体験学習プログラムは市民の自覚を促し、まちづくりの動きと担い手への育成に繋がっていくことを目的とする。

6.ワークショップの運営組織

今回施行において開催したワークショップについて説明する。行政・専門家・住民から成る。図 - 1 の運営組織から成り、全体をボランティア専門家グループを中心とする徳島ワークショップ研究会が運営を担当した。参加住民は、市が関与するまちづくりグループである触れ愛まちづくり楽会塾生が中心となり、徳島市職員や徳島ワークショップ研究会はスタッフとしてだけでなく、住民としても参加した。

キーワード：総合的な学習の時間、エコツアー、市民参加によるまちづくり

〒770-0814 徳島県徳島市南常三島町 2-1 TEL 088-656-7578 FAX 088-656-7341

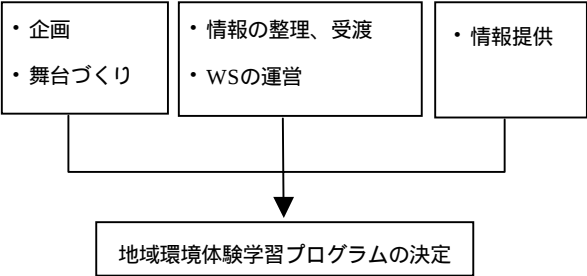


図 - 1 WS 運営組織図

7.ワークショップの展開

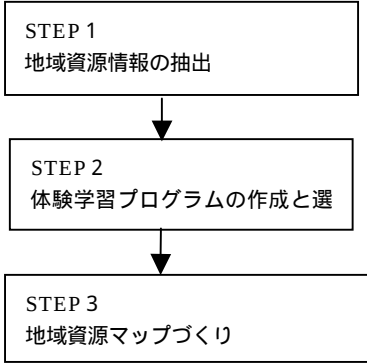


図 - 2 ワークショップ展開図

プログラム策定ワークショップは図に示すように行われた。第1回では、全員で徳島市の地域資源を、大型ポストイトに書き出し、ボードに貼りつけて中心部・北部・南部・西部に分類した。それぞれ地域についてグループで、特徴や誇りである地域資源を議論した。地域内に明確な地域資源(徳島では吉野川など)が存在する場合、それに対する記述が集中したが、他の場合は多様なキーワードが抽出された。

第2回では、グループ会議によって、お互いの地域資源情報について意見交換し、グループリーダーが抽出された内容を整理して、その地域の特徴を捉えることを目的とした。地域の特徴から地域環境体験学習プログラムのテーマを明確にし、体験学習のプログラムを作成した。4つのプログラムに対して投票によって2つのプログラムに選択した。選択されたのは、中心部の幾つもの川によって型取られたひょうたん島を舞台とする‘ひょうたん島はすばらしい’と西部の歴史・文化の伝統が色濃く残す国府町を舞台とする‘国府いにしえ探検隊’である。図-3に中心部グループによる体験学習プログラムシートの結果を示す。

第3回では、‘ひょうたん島はすばらしい’を取り上げ、プログラムを試行した。ひょうたん島を形作る川

を周遊するコースとひょうたん島内にある城山をまわるコースの二通りを設定して行われた。地域資源情報

体験学習プログラムシート		名称	ひょうたん島はすばらしい！
主体(誰が)	参加した親子(川めぐりしたことのない人)	ねらい	ひょうたん島の変化を再確認する
対象(誰に)	ひょうたん島周遊+城山	内容/タイムスケジュール	
集合場所	新町川、ボートハウス前		
移動手段	船、徒歩		
解散場所	新町川、ボートハウス前		
成果物	新しい街づくりの発見と確認 歴史的な事物の発見と確認		
準備物	各自の手作り弁当(飲み物、おやつ)	11:00新町川を守る会の中村氏の話聞く 11:30ひょうたん島半周(船) 12:00城山へ登る(とどろこい坂から) 城山の頂上での食事 14:00徳島城庭園にてお話を聞く 15:00ひょうたん島半周 反省会	

図 - 3 中心部による体験学習プログラムシート



図 - 4 ワークショップ風景

を良く知る参加者から話を聞きながら、気になる地域資源をポロライドカメラで写す。その後、地図上にコメントを挟みながら納得がいったところを「がってんマーク」、驚いたところを「びっくりマーク」、不思議に思ったところを「はてなマーク」、良くないと思ったところを「ばってんマーク」として印を付けていき、地域資源マップを作成した。ひょうたん島周遊コースでは、川の汚れとともに、如何に水とまちが一体であるかを感じ、プログラムを通してまちの異なる一面を見ることができた。城山探索コースでは、今まで何気なく通った道にこんなにも多くの環境資源が存在するのかという驚きが一番多く聞かれた。

8.まとめ

地域環境体験学習プログラム策定には、市民参加型の仕組みが有効であり、特にテーマの設定や資源の発掘に役立った。ただし、参加者は、年齢、性別、職業と多様にする必要があることが分かった。今後は、他地域においてプログラムを試行し、さらなる分析を行い、プログラム開発の明確化を目指していきたい。